

② 暫定詳細実施計画 (TDIP)

(仮訳) 付属文書 II

表 1-1-1. 暫定詳細実施計画

課題	活動内容	成果	外的必要条件
I. 主要疾病の防除計画策定のための疫学調査と研究活動	主要疾病として、豚コレラ、ブルセラ病、牛結核、ヨーネ病及び蹄足動物媒介疾病を選定し、実験室、野外及びフィールドにおいて、これら疾病を疫学的並びに研究活動を通じ調査する。	<ul style="list-style-type: none"> 一 主要疾病の現況が明らかにされる。 一 これらの疾病の原因及び要因が究明される。 一 疫学的調査並びに診断技術の改善はこれら疾病の解明に貢献される。 一 疾病防除法が開発される。 	<ul style="list-style-type: none"> 畜産農家の協力 財政的支援 人材の確保 実験動物の確保
II. 地域獣医研究診断センターに対する研修を及び技術指導	NIAH と RVRDCS におけるグループ及び個々の研修やセミナーを通じ、研究活動の推進並びに疾病や診断に対する現状の問題を研究する。	<ul style="list-style-type: none"> 一 疾病解析に係る科学的知識の獲得 一 疾病診断技術の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> (関係部局間の) 調整 財政的支援
III. 適切な診断システムの確立のための診断技術の改善	診断方法及び技術を開発、改善する。NIAH と RVRDCS 間の診断技術を標準化する。	<ul style="list-style-type: none"> 一 より正確で信頼性の高い診断が円滑に実施できる。 一 NIAH と RVRDCS 間の診断技術が標準化される。 一 標準化された診断マニュアルが確立される。 	<ul style="list-style-type: none"> (関係部局間の) 調整 財政的支援

表 2-1. 豚コレラ

課題	活動内容	成果	外的必要条件
I. 疫学調査 1. アンケート調査による情報の収集と分析 2. 視察調査	発生率、罹病率、致死率等に関する農家からの野外データの収集及び分析 検体の収集及び疾病の免疫学的、病理学的の確認と分析	一 研究のための効果的な情報やデータが収集される。 一 研究に必要な検体の収集及び分析	外的必要条件 情報収集のための農家の協力 試料や情報源としての農家の参加
II. 慢性的豚コレラの研究			実験動物と研究施設
1. 病理学的分析	肉眼的及び組織病理学的検査手法による疾病の臨床的軽重と病理学変化の比較	疾病の軽重が分析される	
2. 野外株の病原性	感染豚におけるウイルス排泄と潜伏期間、及び臨床症状から野外株の病原性の比較	ウイルスの病原性と病毒性が明らかにされる	
3. 臨床化学的分析	臨床化学的手法により健康豚と感染豚の栄養状態の比較	疾病に対する生理的变化が明らかにされる	
4. 合併症の調査	感染豚における2次感染並びに合併感染症の調査	疾病に影響している因子が明らかにされる	

課題	活動内容	成果	外的必要条件
III. 野外株の性状 1. 生物学的及び生理学的性状 2. 抗原性の分析	野外株を明らかにする、並びに特性付ける 野外株の抗原性の分析	一 野外株が特性付けられる	研究施設
IV. key farm における疾病 防除計画のモニタリング、 サーベイランス及び評価	豚の周期的な免疫応答の研究及び疾病 の追跡・観察する	一 疾病のモニタリング、サーベイランスに係 る key farm が選抜される 一 疾病防除に係る効果的なデータ及び情報が得 られる	農家の協力 データ分析のための 施設
1. key farm における血清像 の研究と疾病のモニタリン グ及びサーベイランス	疾病防除計画の施行とデータの分析	一 タイ国における疾病防除計画に関する技術 的報告	
2. key farm における疾病防 除計画の評価			

表 3-1. ブルセラ病

課題	活動内容	成果	外的必要条件
I. 新しい診断技術の適用	現存法と ELISA 技術の比較	一より信頼性の高い検査手法として発展する	
2. 血清診断への ELISA 技術の応用	実用法としての ELISA の適用および標準法としての確立	一診断技術及び疾病の摘発率の改善	
II. 野外疾病の実態調査	凝集反応と補体結合反応により疾病の分布状況を調査する	一疾病の野外の実態が明らかになる	感染牛の補填に係る 予算措置
2. 細菌分離	材料からの細菌の分離同定を行う	一疾病の原因と疾病のステージが明らかにされる	
3. 病理学的検査	病理学的観察により疾病の同定とその病勢を調べる	一疾病の病勢が明らかになる	
III. key farm におけるモニタリングの実施と防除計画の策定	感染牧場及び清浄牧場から key farm を選定する	一モニタリング及び調査のための key farm が選定される	
1. key farm の選定	臨床学的、細菌学的、病理学的及び血清学的検査により疾病の発生状況の調査	一疾病防除に関する有効なデータが供給される	
2. 疾病のサーベイランスとモニタリング			

課題	活動内容	成果	外的必要条件
3. 種々の方法による疾病の防除 1) ワクチンの有効性 2) 感染牛の淘汰による清浄化 3) 牧場管理	感染牧場の牛を生ワクチンで免役し、その抗体価を調査する 感染牛の淘汰による清浄化を試みる 感染牛の隔離、衛生的管理により疾病を防除する	ー ワクチンの有効性が明らかになる ー 疾病の清浄化が促進される ー 疾病の伝播の要因が除去される	
IV. 疾病防除方法の策定と評価 1. モニタリングの評価 2. 疾病防除方法の策定	疾病の効果的な防除法のためのモニタリング結果を評価する 適切な疾病防除方法を策定する	ー 疾病防除のための適切な方法が準備される ー タイム国における疾病防除に関する技術的報告ができる	

表 4-1. 結核病

課題	活動内容	成果	外的必要条件
I. 新しい診断技術の適用	1. ELISA 抗原の作製と性状の検査 2. 血清学的調査への ELISA 技術の応用	<ul style="list-style-type: none"> 一 より信頼性の高い検査手法として策定される 一 診断技術及び疾病の摘発率が改善される 	
II. 野外疾病の実態調査	1. 血清一疫学的調査 2. 細菌分離 3. 病理学的検査	<ul style="list-style-type: none"> 一 疾病の野外の実態が明らかにされる 一 感染媒体が摘発される 一 疾病の病勢が明らかにされる 	感染牛に係る予算措置及び培養のための隔離装置
III. key farm におけるモニタリングの実施と防除計画の策定	1. key farm の選定 2. 疾病の調査とモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> 一 モニタリング及び調査のための key farm が選定される 一 疾病防除に関する有効なデータが供給される 	農家の協力、key farm の協力下での適切なデータの収集、感染牛に係る予算措置

課題	活動内容	成果	外的必要条件
3. 種々の方法による疾病の防除 1) 感染牛の淘汰による清浄化 2) 牧場管理	感染牛の淘汰による清浄化を試みる 感染牛の隔離、衛生的管理により疾病を 防除する	一key farm における疾病の清浄化が促進される 一key farm における疾病の伝播の要因が除去される	
IV. 疾病防除方法の策定と評価 1. モニタリングの評価 2. 疾病防除方法の策定	疾病の効果的な防除法のためのモニタリングの結果を評価する 適切な疾病防除方法を策定する	一疾病防除のための適切な方法が準備される 一タイ国における疾病防除に関する技術的勦告ができる	

表 5-1-1. ヨーネ病

課題	活動内容	成果	外的必要条件
I. 新しい診断技術の適用 1. ELISA 抗原の作製と性状の検査 2. 血清学的調査への ELISA 技術の応用	特異性と利用性の分析し、ELISA 抗原を作製・標準化する 血清診断の実用法としての ELISA 法を適用する	一より信頼性の高い検査手法として策定される 一診断技術及び疾病の摘発率が改善される	
II. 野外疾病の実態調査 1. 血清一疫学的調査 2. 細菌分離 3. 病理学的検査	補体結合反応、ELISA 法及び養便培養検査により疾病の分布状況を調査する 材料を収集し、同定と菌分離のため、マコバクタン添加、不添加培地で培養する 病理学的、血清学的及び細菌学的検査により比較する 診断における免疫組織化学的方法を試みる	一疾病の野外の実態が明らかになる 一感染媒体が摘発される 一疾病の病勢が明らかになる	感染牛に係る予算措置及び培養のための隔離装置
III. key farm におけるモニタリングの実施と防除計画の策定 1. key farm の選定 2. 疾病の調査とモニタリング	感染牧場及び清浄牧場から key farm を選定する ELISA 法、補体結合反応、菌分離、比較病理学的検査により、流行性をモニタリング及び調査する	一モニタリング及び調査のための key farm が選定される 一疾病防除に関する有効なデータが供給される	農家の協力、key farm の協力下での適切なデータの収集、感染牛に係る予算措置

課題	活動内容	成果	外的必要条件
3. 種々の方法による疾病の防除 1) 感染牛の淘汰による清浄化 2) 牧場管理	感染牛の淘汰による清浄化を試みる 感染牛の隔離、衛生的管理により疾病を 防除する	一key farm における疾病の清浄化が促進される 一key farm における疾病の伝搬の要因が除去される	
IV. 疾病防除方法の策定と評価 1. モニタリングの評価 2. 疾病防除方法の策定	疾病の効果的な防除法のためのモニタリングの結果を評価する 適切な疾病防除方法を策定する	一疾病防除のための適切な方法が準備される 一タイ国における疾病防除に関する技術的勸告ができる	

表 6-1. 節足動物媒介疾病

課題	活動内容	成果	外的必要条件
I. 原虫病に関する ELISA 法の開発 1. パババシ病及びトリパゾマ病用 ELISA 抗原の作出 2. パババシ病及びトリパゾマ病用 ELISA 抗原診断法の開発 3. トリパゾマ病用 ELISA モノクローナル抗体を用い、トリパゾマ病用 ELISA 抗原診断法を開発し、その野外的有用性を評価する	脾摘出牛を用い、パババシ病、トリパゾマ病用 ELISA 抗原及び高免疫血清を作出する パババシ病及びトリパゾマ病用 ELISA 抗原診断法を開発し、評価する モノクローナル抗体を用い、トリパゾマ病用 ELISA 抗原診断法を開発し、その野外的有用性を評価する	一抗原が作製される 一より信頼性の高い診断方法が開発される 一原虫病の血清学的及び疫学的調査が実施される	NIAH と DLD の体制が変わらない 適切な予算措置
II. 血清疫学的調査 1. 節足動物媒介原虫病：肉牛のパババシ、トリパゾマ、トリパゾマ病 2. 節足動物媒介ウイルス病：牛白血病、牛流行熱、馬の日本脳炎	IFA 法と ELISA 血清診断法によりパババシ、トリパゾマ、トリパゾマ及びウイルス病の地理的分布を調査する 牛白血病、ブルルンク、牛流行熱、馬の日本脳炎の地理的分布が調査される。これらの疾病の血清診断は、中和反応とゲル内沈降反応で調査する	一タイ国における節足動物媒介原虫病の分布が明らかにされる 一タイ国における節足動物媒介ウイルス病の分布が明らかにされる	地域獣医官及び農家の協力の

課題	活動内容	成果	外的必要条件
III.媒介昆虫の地理的分布 1.ダニの地理的分布と分類 2.アブの地理的及び季節的分布	媒介ダニの種の同定およびその地理的分布を明らかにする 原虫疾病の媒介昆虫としてのアブの種の同定および地理的分布と季節出現性の説明	一ダニの地理的分布と種の分類が明らかにされる 一アブの地理的及び季節的活動状況が明らかにされる	
IV.ババシツ病防除のためのババシツ病の野外試験 1.ババシツ病と効果と安全性の試験 2.ババシツ病防除のためのババシツ病の評価	輸入ワグチンと試験的に製造したワグチンの効果と安全性を比較する ババシツ病防除のため、試験データの整理及び分析する	一試験ワグチンの効果と安全性が明らかにされる 一疾病防除に必要な情報が収集される	農家の協力 分類等のための適切な助言 スタッフ等の適切な配置

付属文書 II

表 7-1. 地域研究診断センターに対する研修及び技術指導

課題	活動内容	成果	外的必要条件
I. 疾病防除と技術に関する研修	研修事業は集団研修及び個別研修によって行う	一 疾病防除並びに診断に対する知識、技術が修得、発展する	研修活動に対し、組織的にも良好な状態
1. 疾病研修	実際の疾病の事例、実際の診断上の問題、疾病の発生等について紹介、研修する	一 家畜疾病の現況に関する情報の有効利用 一 疾病防除に係る理解	
2. 診断技術研修	それぞれ専門の研究室において困難な診断、診断上の問題を研修する	一 診断や調査活動に係る技術の修得	
3. 新技術研修	それぞれ専門の研究室において、研究活動、新診断技術の研修を行う	一 家畜疾病摘発の摘発の対して利用される 一 家畜疾病の分析や診断に係る新技術の修得	
II 地域獣医研究診断センターにおける技術指導	地域獣医研究診断センターにおいて、スタッフに対し日本人専門家が家畜疾病診断方法や技術を導入・移転する	一 家畜疾病分析に係る技術の習得 一 家畜疾病の診断のため、技術の有効活用	技術移転における RVRDCS 間の調整と分析

課題	活動内容	成果	外的必要条件
III.セミナー 1.家畜の重要疾病に関して 2.家畜衛生と疾病防除に 関して	家畜の重要疾病、家畜衛生及び疾病防除 等のセミナーの実施	一家畜の重要疾病における正確な理解と情報 が有効活用される 一家畜疾病防除における計画と調整に関する 正確な理解と知識が有効活用される	外的必要条件 予算措置

付属文書 II

表 8-1. 診断方法の標準化とシステム化のための診断技術の改良

課題	活動内容	成果	外的必要条件
I. 既存診断法の評価	NIAH と RVRDCS での既存診断方法、技術の確認、比較する	NIAH と RVRDCS 間の診断技術の標準化に関するデータの活用	予算措置と調整
II. 既存診断技術及び方法の改善	既存診断方法を簡便性、感受性及び特性の観点から改善する	疾病摘発に係るより正確な技術の獲得	
III. 診断技術の開発	ELISA や IHA, R-PHA, LA 等のような免疫学的診断技術や新技術の開発をする	新診断技術の獲得	
IV. 診断方法の標準化	NIAH と RVRDCS 間の微生物学的、免疫学的、病理学的及び生化学的診断方法を標準化する	<ul style="list-style-type: none"> —より正確で信頼性の高い診断方法が NIAH と RVRDCS で使われる —NIAH と RVRDCS 間の診断方法の標準化が達成される 	予算措置と調整

